教職論
Study of Teaching Profession

担 当 複 数

担当教員：今井 文俊、 海口 浩芳、 早川 信一、 戸川 点
科目ナンバリング：UTL-1-301-03

■授業の目的及び到達目標
本授業は、自身の進路選択にあたり教職に対する漠然とした憧れを一生の仕事にしたいとの確信に変えられるよう、教師は日々どのような職務に従事しているのかを学び、チーム学校の一員として、教職のもつ社会的存在意義と使命を知識として修得することを目的とします。また、現代社会においてますます教育に対する関心が高まる中で、その期待に応えられる資質・能力を身に付けるとともに、教師としての在り方に結び付く、バックボーンとなる思考フレームを具体化できるようにすることを到達目標とします。

■授業計画
1 教員になるために
教員の仕事の職業的特徴と社会的存在意義を概観したのち、教員の法的な位置づけや条件を学修した上で、自身がどのような教員と出会い、教員として期待し、どのような教員になりたいのか議論を交わし考察を深めます。
2 教員養成の歴史
我が国の教員養成はどのような道のりを辿って来たのかを学修し、そこに通じる教職の不易と教職観の変遷を踏まえた上で、今日の教員に求められる資質能力や社会的役割について議論を交わし考察を深めます。
3 学び続ける教師
公教育の目的を成し得るためには、大学段階から教職課程を学ぶ必要があること、また、教員には継続した研修が制度上からも必要であることを学修し、具体的にどのような研修が求められるか議論を交わし考察を深めます。
4 校務分掌と教員組織
学校運営にあたっては、学習指導や生徒指導以外にも様々な職務があり、その全体像の把握と、効率的に職務を進めるための組織構成が必要になることを学修し、その特長と課題について議論を交わし考察を深めます。
5 チーム学校
教員が使命感の名のもとにすべてを背負い込むのではなく、様々な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして諸課題に対応することの重要性を学修するとともに、その運営上の問題点について議論を交わし考察を深めます。
6 教員の一日
教員の一日は地域、校種、規模によって異なるが、その違いをそれぞれ概観したのち、自分は現状でどのような校種の教員に適しているのか、自己分析を通じた議論を交わし考察を深めます。
7 教員の服務と法規上の留意点
教員に求められる身分上、職務上の義務と、身分保障を学修した上で、教員の不祥事がなぜ絶えないのか、不祥事を起こさないようにするにはどのような方策が必要なのか、児童生徒への性暴力等の防止などについて議論を交わし考察を深めます。
8 教師に求められる事務能力
教員が作成する表簿にはどのようなものがあるかを概観したのち、教員の多忙化の解消に向けた取り組みとしてＩＣＴの活用について触れ、その長所とこれからの課題について議論を交わし考察を深めます。
9 学級運営
学級運営は児童生徒相互の人間関係や個人の生活態度、学びの効果にも直結することを学修した上で、学級がより良い方向に機能するためにはどのようにすべきか、その取り組みについて議論を交わし考察を深めます。
10 学習の進め方
導入、展開、整理といった学習指導に基づく授業の過程や、一斉学習、グループ学習、個別学習などの学習形態について学修したのち、学習指導でＩＣＴを導入することの効率化と効果について議論を深め考察します。
11 保護者への対応
モンスターペアレント問題や児童虐待、子どもの貧困、ヤングケアラー問題などの現状を把握し、どのように保護者と向き合えば諸問題の解決につながるか、教員にできることは何か議論を交わし考察します。
12 いじめと不登校、性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する理解
いじめや不登校について定義や実態を把握し、その慎重な対応や取組みについて事例を挙げて議論を深め考察します。また、性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する理解を増進できるよう解説を行います。
13 試験及びフィードバックとしての解説
今日の学校教育や教職の社会的存在意義、教員に求められる役割や資質能力、職務内容の全体像、身分上、職務上の義務、専門家等との連携・分担の必要性等について試験を行い、そのフィードバックとして解説を行います。

■授業の方法
知識として伝えるべき内容については講義形式とするが、その際でも質問を通じて受講生に意見を求め、双方向の授業展開をします。また、グループ学習を取り入れ、議論をすることで新しい学びを発見し、学修を深めるようにします。加えて、講義の最後には振り返りの時間を設け、学んだことの整理をします。

■予習・復習
予習では、学修内容の理解を深められるよう教科書を読み、重要箇所をマークするなどの準備をしてください（1 時間程度）。復習では、配付した資料をもとに毎回の講義の要旨をまとめ、振り返りをしてください（1 時間程度）。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）
授業貢献度 40%、試験 60%で評価します。授業貢献度は、授業内での発言や振り返りシートへの記入などについて評価します。また、試験は授業で扱った学修内容などから出題して評価します。

■教科書・参考書
教科書：「教職論」津田徹、広岡義之　編著（ミネルヴァ書房）
参考書：文部科学省「学習指導要領」、教育小六法

■関連する科目
教育原理、教育社会学、教育・発達心理学、特別支援教育論、教育課程論など、教育の基礎理解に関する科目